

## 会議録

会議名称 平成21年度第1回鯖江市地域公共交通会議  
開催日時 平成21年6月24日(水) 午後2時～午後3時半  
開催場所 鯖江市役所 第1委員会室  
議 題 別紙のとおり  
会議資料 会議次第、委員名簿、  
平成21年度鯖江市つつじバス運行の現状について(資料1)  
鯖江市地域公共交通会議設置要綱の一部改正について(資料2)  
平成21年度鯖江市つつじバス停留所移動・一部路線変更について  
(資料3)  
公開・非公開の有無 公開  
傍聴人の数 1人(海野議員)

|      |   |       |
|------|---|-------|
| 出席委員 | 山本委員、上田委員、仲保委員、伊藤委員、佐々木 <sup>常</sup> 委員、<br>相馬委員、湧口委員、齋藤委員、佐々木 <sup>肇</sup> 委員、瀧ヶ花委員、<br>山内委員、鈴木委員、廣瀬委員、杉森委員、藤田委員、<br>前田委員(為沢委員代理)、竹内委員 | 計 17名 |
| 欠席委員 | 田中委員、加藤委員、長谷川委員   | 計 3名  |
| 事務局  | 中村課長、関本参事、峰田主任、川崎主事   | 計 4名  |

### 1 開会・委員紹介

○関本参事より、委員、事務局の紹介

### 2 会長、副会長の選出

○会長に鯖江交通安全協会会長の湧口委員、副会長に鯖江市区長会連合会副会長の齋藤委員が選出

⇒全員承認

○湧口会長あいさつ

### 3 報告事項

平成21年度鯖江市つつじバス運行の現状について

○峰田主任より、平成21年度鯖江市つつじバス運行の現状について説明  
(資料1)

湧口会長： ただいまの現状報告について質疑があれば伺いたい。

佐々木<sup>肇</sup>委員： 質疑ということではないが、お礼を申しあげたいと思います。毎月3日間「0」のつく日について75歳以上が無料になる制度であったり、高齢者の足の確保ということで利便性をはかっていただいたり、高齢者にご好配を賜り、心からお礼を申しあげたい。

湧口会長： 運行事業の現状について、運行経費の表(資料1-P.9)から、総利用人数は平成13年度では約7万2千人であったが、平成20年度では約17万人にまで増加した。また、収入(利用者負担金)について平成18年度と19年度を比較すると約5百万円減少している。ここから、コミバスを利用してくれる人が増え、高齢者、障害者を無料にする制度などを設けたことにより、無料になるお客さんがたくさん利用して下さって、福祉バスとして定着したことがわかる。

湧口会長： それ以外に質疑がないようでしたら、次の議題に入らせていただきます。

委員： (異議なし)

#### 4 協議事項

- ①鯖江市地域公共交通会議設置要綱の一部改正について
- 峰田主任より、要綱の一部改正について説明(資料2)

廣瀬委員： 幹事会で審議することについて、例えばバス停の移設等について幹事会で確認し了承した場合、幹事会の決議をもって、交通会議の決議として解釈すればいいのか？

湧口会長： この件に関しては、私が提案した。例えばバス停を数メートル動かすなどの軽微な案件に関して、毎回交通会議を開くと非常に大変である。そういった軽微な案件に関しては、事務局が

幹事会を開き、省略することでよりスムーズな運営ができる。バス停の移動の依頼に関しては、区長さんの推薦状があるので、それに合わせて業者との意見をふまえて決議する。

廣瀬委員： 別記様式として、協議が調っていることの証明書があるが、幹事会での会長名ではなく、交通会議での会長名となっているので、幹事会の決議＝交通会議の決議としていいのか？

湧口会長： そういうことになる。要綱にもそういったことをわかりやすく謳うとよい。

⇒事務局了解

○湧口会長より、山本委員、上田委員、仲保委員、伊藤委員、相馬委員（運行事業者）、田中委員（利用者代表）、廣瀬委員（中部運輸局福井運輸支局長の指名）、杉森委員（鯖江警察署長の指名）を幹事に指名

⇒全員承認

湧口会長： 幹事に指名された方については、ご協力のほどお願い申し上げます。

②平成21年度鯖江市つつじバス停留所移動・一部路線変更について  
○峰田主任より、停留所移動・一部路線変更について説明（資料3）

湧口会長： 一つ提案があるのだが、路線別の集計（資料2）から鯖江南線については、1年間で合計743人の利用人数で、非常に少ないことがわかる。この中には無料で乗っているお客さんもいるので、市に入ってくる料金というの少ないことがわかる。平日は4便、土日祝日は2便となっており、1ヶ月で約104便運行することになる。この便数より1ヶ月の利用者が少ないということは、空で走っている便があることになる。こういった現状についてもこの会議で考えていくことが必要になる。利用データを参考にして、具体的な理論から筋道を立てて、利用者等に理解してもらえるように考えていかなければならない。この会議において、来年の見直しなどのためにも、「こういうのは悪いが減便してほしい。」などの意見を出して委員みんなで考

えていってほしい。また、アンケートにあったように、運転手に対して接客態度の悪さもある。こういったことに関しても、改善するためにはどうすればいいのかなども話し合っていきたい。以上のようなことをふまえて、皆さんのご意見をいただきたいと思います。

廣瀬委員： 中部運輸局の方で「コミュニティバスの事業評価の手引き」を作成した。これはHPからでも確認できる。コミバスの評価について、様々な評価の方法がある中でどうやって評価すればいいのかという問題がある。評価をするための手引きを作ったかどうかということで、指針を作らせていただいた。こういったものを活用して、つつじバスについての事業はどうかということの評価していただきたい。いろんな数値を使ってコミバスについて評価していく。冊子については事務局にお渡ししているので、事務局のほうでチェックシートなどを使って、評価の草案を作成していただき、会議で皆さんの了解をもらい、最終的には市民の皆さんに公表することも一つの手だと考えている。事務局のお手を煩わせてしまうことになるが、是非お願いしたい。

伊藤委員： 資料1-P.8の(14)、(15)では案ということで記載しているが、現段階ではどのような状況になっているのかおしえてほしい。

事務局： 6月に入って国の新たな財源措置があり市としても有利な補助制度が受けられる。本来は10年間事業者の方でバスを購入する予定だったが、市でバスを購入し、有利な制度を活用することで、全体の経費を削減したいと考えている。この補助制度については、市が直接購入することが条件にあげられている。いずれにしても、来年の4月から継続的にバスを運行する予定である。バスの運行に関しては、従来通りバスの事業者をお願いする予定である。入札も含めて、ご迷惑がかからないよう、情報提供についてもできる範囲で行っていきたいのでご理解をお願いしたい。

伊藤委員： 事業者としては、できるだけ使いやすいバスを使用したいという思いもある。市でバスを購入する場合は、事業者の意見も

ふまえながら購入していただきたいので、購入の際に相談等してけるとありがたい。

藤田委員： 鯖江南線については極端に利用人数が少ないが、この解決策として、手っ取り早いのが、バスを予約制にするといったことである。予約制にすることで、最低1人は乗ることになるので、空便になるといったことがなくなる。このような対策で利便性を図ることができるが、事業者が弾力的に対応できるかが問題になってくると思うので、今後検討していくことも必要である。

高齢者の運転免許自主返納の特典として、以前はコミバスを1年間無料で乗ることができたのだが、現在は10年間の無料となった。他の自治体でも同じことだが、単純になぜ10年間なのか？免許を返納しようとする人のイメージは70歳ぐらいの方で、10年立つと80歳ぐらいになっている。10年間無料になっていて、その後に通常通りの料金に戻るのもどうかと思うので、そこまでいっただらずっと無料でいいのではないか？

湧口会長： 県警本部において、後期高齢者に対して、今年から75歳以上になると認知度の検査を受けることになっている。75歳以上になると運動神経が鈍るなどの理由から、加害者になる可能性が多い。できるだけ免許をもっている人には自主返納をしていただくようにしている。鯖江市では福井県の中で返納率が高い。

杉森委員： 今年の始め頃に、県が各自治体の市町などを集めて、運転免許の自主返納をよびかけ、交通事故防止につなげている。

事務局： コミバスについて、鯖江市の場合は全市を均一なサービスで運行することが大前提になっている。運転免許自主返納の無料制度については、根本から考え直すことにもなるので、今のところ変更する予定はない。また、平成20、21年度の集計表からわかるように、鯖江南線については、昨年度からみると利用者が若干は増加しているが、他の路線と比較すると極めて少ないことがわかる。この会議で様々な意見をいただいたことについては、地元の方に説明し、「乗って守る」という考え方に意識をもってもらうように、事務局としても力を入れていきたい。

湧口会長：

他にご意見はありませんか？なければ、本日頂いたみなさまの貴重なご意見を受けまして、よりよいコミュニティバスの運行をはかっていきたいと思っております。宜しくご協力お願いします。本日はありがとうございました。